

キャラクター名  
花村 佳悟

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス		ワークス	UGNエージェントD	カヴァー	[支部のカヴァー]の社員/従業員
	ウロボロス					
オプション			年齢	21	性別	男
覚醒	感染	衝動	自傷	初期侵食率	35	%
出自	待ち望まれた子	経験	裏切られた	邂逅	忘却	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	2	0	0			2	行動値	8
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	8
精神	4	0	0			4	戦闘移動	13
社会	0	1	0			1	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	4		交渉	1	
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	2
運転:			芸術:			知識:レネゲイド	4		情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
偽獣の咆撃(ビースト・ロア)	RC	10r+4	8	26		コスト:8 コンボ:1+3+4
偽獣の咆撃(100↑)	RC	11r+4	7	29		コスト:8 コンボ:1+3+4

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:UGN幹部	
コネ:専門家・レネゲイド	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
輪廻の獣(アルマ・レグナム)	P	N		
仇: 四条 鍊弥	P 連帯感	N 憎悪		
アルフレッド・J・コードウェル	P 尊敬	N 不信感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:ウロボロス	2	2	メジャー	-	自身	シンドローム	-	
効果: C値-[Lv](下限7)								
レックレスホース	5	基本+2	常時	至近	自身	自動	-	
効果: [暴走]時、メジャー+[Lv]D								
原初の赤:魔獣の衝動	1	3	メジャー	視界	単体	RC	-	
効果: 攻撃力+5 ダイス+[Lv]D 射撃攻撃 1ラウンド1回								
螺旋の悪魔	7	3	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果: 1ラウンド攻撃力[Lv×3] [暴走]付与								
変貌の果て	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: オーヴァード化による外見の大幅な変化。								
道化の出し物	1	1	オート	至近	自身	自動	-	
効果: エフェクトの外見偽装								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

輪廻の獣を宿すウロボロスピュアのUGNエージェント。  
 普段は支部で事務処理・カヴァー業務などを行っているが、戦闘時には即獣になり咆哮による攻撃を行う。  
 コードネームは「慟哭の偽獣(クライ・ビースト)」。その戦闘力とキュマイラではないのに、獣化して戦うことから名付けられた。  
 普段は温厚だが、自分の周りの人間が巻き込まれると、切れやすくなる。UGNの理念には賛同しているが、自分の周辺を守ることを最優先している。コードウェル博士の敵対にも驚きはしたが、特に信念が揺らいだとかはない。

かつてはほぼ戦闘能力を持たず、本当に覚醒しただけであったため、UGNの事務職員として働いていて、戦闘とは無縁であった。しかし、潜り込んでいたFHのスパイ「四条鍊弥」に誘導された輪廻の獣に支部が襲われた際に、獣に取り憑かれその力を引き出す形での高い戦闘能力を得る。

獣に取り憑かれた際に容姿が変わっており、アルビノの高校生程度の青年といった風である。元は普通に黒目黒髪で年相応の顔立ちだったこともあり、戸籍上は同姓同名の別人として処理されている。元の名義の死亡届も出されており、家族にも死んだと思われている。  
 (家族構成は祖母・両親・佳悟・妹であり、待ち望まれていたのは第一子だからで特別なことはない。)

コードウェル博士と話した覚えがあるが、いつどこで、具体的にどんな内容だったかは覚えていない。